



令和5年4月 新任教員からのご挨拶

榊原 禎宏 教育創生リージョナルセンター機構長

教育創生リージョナルセンター機構長を再び拝命しました。先期にも増してどうぞよろしくお願いいたします。

さて、本機構は京都の地に根ざした教員の養成と研修を支援することをミッションにしていますが、それは「故きを温ねて新しきを知る」に倣えば、これまでの経験を大切にすることと同時に、迫り来る新たな課題をよりの確に捉え、可能な対応や革新を構想することでもあるでしょう。

具体的には、スクール・ボランティア、就職対策やスポーツ指導者養成事業ほか、現職教員研修とりわけ京都府北部創生支援事業を含む京都府・市教育委員会との連携を着実に継続していくこと、これが前者にあたります。また、「令和の日本型学校教育」をはじめ、探究学習、ICTの活用やデジタル教科書にいかにか臨むのか、その意義と限界を分析、考察すること、あるいは、実地教育の改善を図り「働き方改革」を提案すること、さらには「先生を究めるWeb講義」の大幅な改訂や「学び続ける教員へのメッセージ（講演会・シンポジウム）」を刷新していくこと、これは後者に相当すると考えます。

これらを進めていくには、堅実なスケジュールリングと業務遂行に努めながらも、緊張感の少ない緩やかで楽しい、そして創造的な場を生み出すことが重要でしょう。いきおい組織は人々を凝集させる一方、息苦しくもさせる装置です。その特性を踏まえて、多様な見方と新しいアイデア、そして試みが「センター」（中心）という名称にふさわしくここから創発されますように、みなさまのご支援を心よりお願い申し上げる次第です。

原田 信一 教職キャリア高度化センター長

この度、教職キャリア高度化センター長を拝命致しました。どうぞよろしくお願いいたします。

昨今、社会のグローバル化や情報化の進展により、教育を巡る状況の変化が増している中で、教師自身も高度な専門職として新たな知識技能の習得に継続的に取り組んでいく必要が高まっています。現在、学校教育の現場では、「令和の日本型学校教育」の実現を目指して、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習への転換が図られています。

本センターでは、教職キャリアの全体を見通しながら、大きく二つの拠点を中心として支援に取り組んでいます。一つ目は、「実地教育支援」「学校ボランティア」「スポーツ指導者養成」「就職・キャリア支援」の各部門が、附属学校や京都府・京都市教育委員会等とも連携した学生・大学院生への支援として、教員養成支援拠点における活動です。二つ目は、「教職キャリア支援」、「カリキュラム開発」の各部門が、Web動画の提供や講演会の実施をはじめとする様々な取り組みを通じた現職教員への支援として、教職支援拠点における活動です。本センターは設立以来、現代的教育課題に対応した教員の養成、現職教員に対する研修プログラムの提供を行い、「教職の全体を通じて学び続ける教員」を支援することに取り組んできました。これからも本センターが、教職員や学生の皆さん、及び学校等に寄り添える身近な存在でありたいと願っています。

今後とも、教職キャリア高度化センターの事業につきまして、より一層のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

米澤 武史 准教授

今年度より教職キャリア高度化センターでお世話になります米澤でございます。平成元年度に本学特修理学科を卒業いたしました。その当時はG棟や本センターはありませんでしたが、私が在籍していた理科教育研究室の建物は当時のままで、懐かしさと目新しさの両方を感じています。

昨年度まで京都市立中学校に教頭として勤務しておりました。立場上、生徒たちとお話をしたり、授業をしたりすることはあまりなかったのですが、これからは教員を目指す学生たちに対し、サポートできるよう尽力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



大久保 紀一郎 講師

この度、教職キャリア高度化センターに着任いたしました大久保と申します。よろしく願いいたします。これまで小学校教員を15年間勤め、昨年度は島根大学教職大学院に勤務しておりました。現場での実践をもとに、様々なメディアをどう読み解くか、メディアを学習でどう活用するかといったメディア研究に取り組んでまいりました。

求められる学力観や授業観など、大きな転換が求められていると感じています。現場での経験と研究の専門性を活かし、より良い教育の実現に少しでも貢献できればと考えております。学生の皆さんや現場の先生方と共にこれからの教育を考えていけることを楽しみにしています。どうぞよろしく願いいたします。

新体制になった教職キャリア高度化センターを、引き続きよろしく願いいたします。



令和5年3月 退任教員からのご挨拶

高柳 真人 教職キャリア高度化センター長

真人乗舟将欲行

アニメにもなった「ど根性ガエル」の登場人物、町田先生の口癖は、「教師生活25年」というものですが、その時間を遥かに超えた教師生活41年を数える今、区切りの時を迎えることになりました。この間、恙なく過ごすことができたのも、ご縁があって出会うことのできた方々のご厚情の賜であると思うと、嬉しさや感謝の念で一杯になります。子育て支援の講演などで、「子ども一人育つには村中の大人が必要」という諺をよく聞きますが、今の私を作ってくれたのも、そうした方たちなのだと思います。2つの高校、2つの大学を経て着任した京都教育大学に在籍したのは6年1ヶ月と、勤務した中では最も短い期間でしたが、とても印象に残る日々を過ごすことができました。私は、教職キャリア高度化センターの「先生を究めるWeb講義」に4本の動画を提供していますが、その1作目(「教師の成長」)は、着任した2017年度の大学院の授業(「教師教育学特別演習」)を受講してくれた7人の大学院生とともに、シナリオづくりから取り組んだもので、この作業を通じて京教に溶け込むことができたようにも思います。幸いなことに、この動画は、2022年度京都府のスペシャリスト教職支援プログラムでも視聴して戴くことができました。

振り返るとあっという間でしたが、この間、京教の学生、院生さん達の学びに向かう姿や互いに切磋琢磨する姿を見るのも楽しみでしたし、一緒に仕事に取り組む同僚たちが示して下さるお人柄や学識、スキルに感服することが度々あったことも、忘れ難い思い出となっています。私自身の心が動くような体験をしていた時に見せて戴く表情やしぐさなどは、今でも心の中に生き生きと息づいています。幸いなことに、京教退職後もご縁があって、学生さんとのお付き合いを続けることができそうです。

私の心の中に住まう多くの方々力も借りながら、新たな道を歩んでいこうと思っております。みなさん、ありがとうございました。

福間 拓 准教授

「光陰矢の如し」あっという間の3年間でした。また、新型コロナウイルス感染症対策で、大学での教育活動が大きく変わった3年間でもありました。教育創生リージョナルセンター機構教職キャリア高度化センターの皆様をはじめ、京都教育大学の皆様にはお世話になり心より感謝いたします。ありがとうございました。

本学では主に3・4回生の教員採用対策の授業やセミナー、面談指導の企画と実施を担当させていただきました。混沌とした世の中にあって一筋の光である教育、その根幹となる教員養成に携わることができてよかったと共に、教員としての自分自身の成長にもつながりました。

今後も本センターが中心となり、教員養成にご尽力されることを期待いたします。重ねて、本学の益々のご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。



「学び続ける教員へのメッセージ」講演会の報告

今年度も「学び続ける教員へのメッセージ」として、講演会を2023年2月18日（土）に
対面形式にて実施し、158名が参加しました。講師には教職員支援機構理事長 荒瀬
克己先生をお招きし、「一人ひとりの子どもを主語にする学校をつくる」というテーマ
でお話をいただきました。

2021年1月に中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」
が答申され、2020年代を通して実現すべき学校教育の姿を「全ての子供たちの可能性
を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」としています。ここでは、各学校段階
における子供の学びの姿や教職員の姿、それを支える環境について、「こうあってほし
い」という願いを込め、新学習指導要領に基づいて、一人一人の子供を主語にする学校
教育の目指すべき姿が具体的に描かれています。

今回の講演会では、この答申や学習指導要領を手がかりに、「一人ひとりの子どもを
主語にする学校」の在り方について考える機会を設けていただきました。特に、『「指
導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」で
あること。この「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念が「個別最適な学
び」であり、この「個別最適な学び」が「孤立した学び」にならないようにすること。
そのためにも「協働的な学び」を充実させることも重要となり、「協働的な学び」にお
いて集団の中で個が埋没してしまうことがないように、「主体的・対話的で深い学び」
の実現のに向けた授業改善につなげていくこと。「個別最適な学び」と「協働的な学び」
を一体的に充実させること。』という内容についてとてもわかりやすく、これからの教
師に求められる資質・能力を踏まえながら、ご教示いただきました。

参加者からも「令和答申などについて、より解像度を高めることができました。これ
からの研修の在り方などについて考えるヒントをいただきました。」「個別最適化とは
何なのか、そのためには何が必要なのかを改めて考えさせられました。現場で活かせる
ようにがんばりたいと思います。」等の声があり、たいへん好評でした。また、講演終
了後も参加者の方が数名控室に來られ、学校内での教員研修について、荒瀬先生に熱心
に聞いておられる姿がたいへん印象的でした。

● 所属教員

機構長	榑原 禎宏
センター長	原田 信一
センター次長	市田 克利 樋口 とみ子
専任教員	中垣 ますみ 吉川 孝 山下 和美 椛山 直美 米澤 武史 大久保 紀一朗
兼任教員	小山 宏之 相澤 雅文

● 連絡先

ボランティアオフィス	075-644-8336
(月～水・金 10:30～13:30、木 10:30～14:30)	
スポーツ指導者養成オフィス	075-644-8143
(月～金 10:00～13:00、14:00～15:00)	
事務担当	075-644-8846/8793
(研究協力・附属学校支援課 研究協力・センター機構支援グループ)	